



たかあき通信

～3月定例会4月臨時会・市政報告書～

発行責任者：
無所属会派『越谷刷新クラブ』
越谷市議会議員 のぐち高明
〒343-0032
埼玉県越谷市袋山 2039
Tel:048-919-2772
Mail:otoiawase.noguchitakaa
ki@gmail.com

2021.5
Vol.10

※右のQRコードを読み取ると、過去の私の一般質問の動画、ならびに過去の市政報告書が表示されます。通信料につきましては各自個人負担をお願いいたします。
なお、動画はWi-Fi環境下での視聴をお勧めします。

※Vol.9よりU D (ユニバーサルデザイン) フォントにて作成しております。

【3月定例会・越谷刷新クラブ代表質問項目】

令和3年3月1日(月)越谷刷新クラブ代表(松島孝夫議員)により、以下の議題にて代表質問が行われました。越谷刷新クラブ、会派所属議員共通の課題として今後も取り組みます。

1 新型コロナウイルスのワクチン接種について

- ① 接種体制の整備について
- ② 接種率向上への取り組みについて

2 コロナ禍における経済対策について

- ① 地域経済の活性化について
- ② 中小企業振興策について

3 業務効率化について

- ① AI・RPAの活用促進について

4 公共交通網の形成について

- ① バス路線の維持・利便性の向上について
- ② 交通不便地域における取組について



【4月臨時会・市長提出議案】

●可決された議案のうち主な事項(抜粋)

★一般会計補正予算(第2号)

地域振興券事業(5億6000万円)

【目的】

- ・コロナ禍で落ち込んだ地域経済の回復へ向けて、市民の消費喚起と市内事業者の売上増大を図るため、プレミアム分を付与した地域振興券を発行する。
- ・発行冊数:12万冊(紙券10万冊、電子2万冊分)
- ・発行総額:15億6千万円分(紙券13億円、電子2億6千万円)

【効果】

- ・コロナ禍で支出を控えていた市民向けに積極的な消費喚起を行う。
- ・発行総額分の地域振興券は市内加盟店のみで使用されるため、通常の購買活動における市外流出分を取り込みながら、直接的に地域内の経済循環を活性化する。
- ・共通券、専用券の区分を設定することで、大型店以外の中小事業者の売上増を一定の割合で確保する。



のぐち 高明
過去動画一覧
※リニューアルしました



のぐち 高明
過去市政報告書一覧
Vol.1～Vol.10



※イラストはイメージです

【4月臨時会を終えてのコメント】

4月臨時会をもって旧庁舎での議会を終えました。6月1日からの6月定例会は新庁舎8階の議場にて議会を行うこととなります。

新庁舎8階には展望ラウンジもございます。是非、一度足を運んでいただければ幸いです。

6月定例会(予定)
1日(火) 開会
2日(水)～6日(日) 議案調査等を含む休会
7日(月)～10日(木) 市政に対する一般質問
11日(金) 市長提出議案に対する質疑
14日(月)～17日(木) 各常任委員会
18日(金) 質疑・討論・採決・閉会

【電子地域振興券について】

・新しい生活様式に対応した地域振興券として電子版を試行的に発行する。購入希望者や加盟店の対応状況などを把握し、電子版の普及可能性や有効性を検証する。

越谷市 地域振興券事業概要（案）

実施主体	越谷市	越谷市（電子地域振興券）
利用期間	令和3年10月から令和4年2月	令和3年10月から令和4年2月
プレミアム率	30%	30%
発行総額	13億円	2億6千万円
（内、プレミアム分）	3億円	6千万円
事務経費	1億5千万円	5200万円
受託者	未定	未定
方式	1冊：1万3千円分を1万円で販売 共通券1000円券×8枚 専用券1000円券×5枚	QRコード決済 入金額にプレミアム分をのせてチャージ
購入上限	1人5冊まで	1人5万円まで
販売方法	専用HPまたは郵便はがきで申込み →当選者にコンビニ振込用紙を郵送 →入金確認後、商品券を郵送	専用HPで申込み →チャージの方法はシステム仕様による
大型店と小型店の 区分け	共通券：全店で使用可能 専用券：大規模小売店舗（1000㎡）以外 で使用可能	電子対応の加盟店全店で使用可能

【この議案に対し市長へ質疑を行いました。】

質疑内容：

令和3年2月に行った「こしがやキャッシュレスプレミアムキャンペーン」では1500円の支払いに対して400円のプレミアム、3000円の支払いに対して、800円のプレミアムをつける事業を行ってありました。

これは、キャンペーン終了日より前に予算が尽きるほど、本市の経済振興策として大変好評な事業でした。

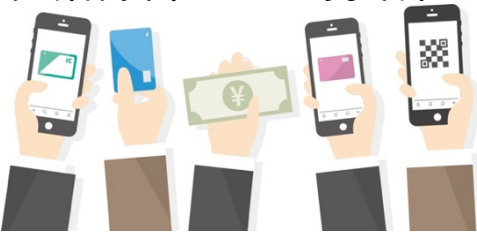
今回初めて導入される電子地域振興券事業は、コストが安くスピーディーであるため、電子による発行額を（上記の）案よりも増やした方が良く考えます。また、今後は（電子による発行が）主流となっていくと予想されますが、市長のご見解をお聞かせください。

回答：

一部の自治体では全ての地域振興券を電子で発行しているという自治体もある。（平塚市）

本市においては、電子振興券は今後の振興券事業のチャレンジとして試行していく。

どの程度の利用があるかはわからないが、今回の利用状況を参考にして、電子利用への要望等がさらに高まっていけば、電子による発行を増やしていく考えである。



※この報告書は費用を抑えるため、のぐち高明本人が作成を行っております。イラストはフリー素材です。
Instagram/LINE@/Facebook/Twitter 等にて随時発信しております。QR からフォローをよろしくお願いいたします。

のぐち高明

1982年（昭和57年）6月5日生まれ 38歳
野口学院を経営する両親の元、長男として生まれる。
しらこぼと幼稚園／越谷市立大袋北小学校／
私立城北中学校／私立城北高等学校／
東京理科大学経営学部／元川口市役所行政職員

